



ふるさと

ねやがわ

昨年のえひめ国体に出場した西さん（右）

大学相撲の名門で主将に

日本体育大学3年生

西 大星さん

市立東小学校を平成21年に卒業した西大星さん（21歳）は、「もっと相撲に打ち込みたい」と、競技環境が整っている高知県の明德義塾中学・高等学校、東京の日本体育大学へと進みました。同大学の相撲部は全国学生選手権大会で6回、団体優勝し、学生横綱も輩出しています。4年生になる今年、西さんはこの強豪チームを主将として率いることになりました。市出身の相撲選手として、豪栄道関、宇良関に続いて応援したいところですが、帰省の合間に取材に応じてもらいました。

身長175センチメートル、体重138キログラム、押し相撲が得意な西さん。相撲を始め、打上川治水緑地で開かれたイベントで「体が大きいからやってみんな」と誘われたことです。年上の子も含めて3人抜きを達成し、面白くなりました。5歳〜12歳の間、寝屋川相撲連盟に在籍。南寝屋川公園の

土俵で稽古した仲間に宇良関もいました。小学校では、青年会議所が開催する「わんぱく相撲」で大阪一になるなど大活躍しました。しかし当時は、週に4日、相撲の稽古をして、さらに1日は柔道場に通う生活。子どもながらきつかったのですが、相撲をやめようかと思ったこともあったそうです。

小学校卒業時、知人の勧めもあって、インターハイで団体優勝したこともある中高一貫校の明德義塾を選びました。自然環境の豊かな学校で、冗談のようですが、好きだったかぶと虫がいると聞かされたことも後押し、本当にかぶと虫を見られてうれしかったと振り返りました。寮生活は、洗濯など全部、自分でしなければいけない初めての体験。戸惑ったこともありましたが、「自分から飛び込んだのに、負けるのは嫌」と考えました。中学校で日本一に、高校でも全国大会の上位に進出しました。



「目指すは日本一」と力を込める西さん

大学に入って、初めは先輩たちに全く歯が立ちませんでした。徐々に地力を上げ、2年生で全国レベルの大会でベスト8に進出するまでになりましたが、3年生のシーズンは「勝たなきゃ、と力みすぎて…」と満足できる内容ではなかったと言います。

新年度、相撲部の目標はもちろん学生日本一。一方、個人として大相撲の力士を目指すかどうかは、まだ決められないそうです。「もともと体育大学を選んだのは、体のことを勉強できるベストの環境と思ったから。幼い頃からよい先生との出会いが多く、教員の免許を取得して指導者になる道もある」。もし指導者になったら、自分のように相撲に打ち込む子どもをたくさん育て、競技の裾野を広げたいと思っています。

地元でお祝い

門井慶喜さんの直木賞受賞

第158回直木三十五賞が、市在住の作家、門井慶喜さん（46歳）の作品「銀河鉄道の父」に決まりました。市では、夫人の俊子さんを市立駅前図書館に招いて北川市長らが祝福しました。

門井さんは群馬県生まれですが、京都の同志社大学を卒業し、30歳代前半から市内に住んで執筆活動を続けています。地元の消防団に加わるなど地域に溶け込み、お祝いには仲間の団員も駆けつけました。

北川市長は「待ち遠しかったが、必ず受賞されると信じていた。おめでとうございます」と祝い、「市出身の又吉直樹さんの芥川賞受賞（平成27年）に続き、市を文学で全国にアピールする機会になります。市民



にとって本当に誇らしい出来事」と喜びました。

北川市長らとくす玉を割った俊子さんは、「ずっと願っていた賞なので、本人も心から喜んでいました」と話していました。



ワガヤネヤガワ・ベンチャー ビジネスコンテストグランプリ決定

市が包括連携協定を締結している学校法人などの学生らからビジネスプランを募集し、1月27日に「グランプリ発表会」が開かれ、応募総数308件の中からグランプリが決定しました。

グランプリは、中川琴葉さん（同志社香里中学校）の工業部門賞「はちかづきちゃんと大葉を育てよう！」です。はちかづきちゃんをイメージした鉢で、市の特産品・大葉を栽培できるキットを製作・販売するプランで、事業計画の明確さやストーリー展開などが評価されました。



予防理学療法の活用効果に関する 共同プロジェクト協定を締結

2月2日、一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会医療経済研究機構と「介護予防事業等を通じた予防理学療法の活用効果に関する共同プロジェクト協定」を締結しました。

専門職と共に目標を立て、運動機能を高めつつ、元の生活の再獲得や望む活動の場などにつなぐ予防理学療法を組み込んだ短期集中通所型サービスを利用することにより、身体機能向上の効果や、社会参加や活動につながる効果、介護サービス未利用状態の維持に与える効果などを分析する全国初の取り組みです。



朝ドラヒロインや豪栄道関が豆まき

2月3日に新寝屋川八景の一つである成田山不動尊で節分祭が行われました。

午前の部では、NHKの連続テレビ小説「わろてんか」のヒロイン役の俳優、葵わかなさんや、宮川大助・花子さんなど、市に縁のある有名人が、午後の部では、市ふるさと大使豪栄道関や、市出身の落



語家桂春之輔さんなどが豆をまきました。

節分祭には約2万7,000人が訪れ、成田山独特の「福は内、福は内」の掛け声でまかれた豆に大きな歓声をあげました。

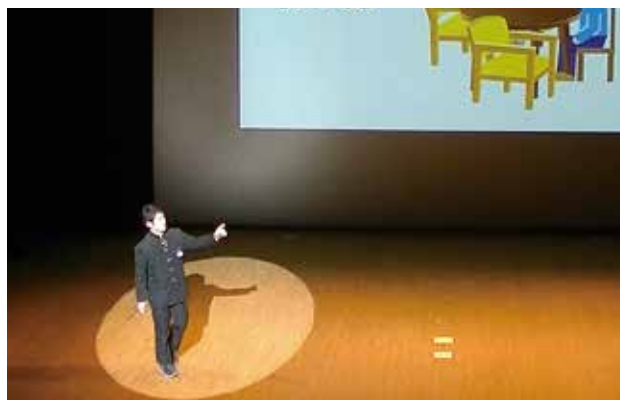
市民の皆さんが春の門出に向けて、幸多き一年でありますように。



災害時医療訓練

2月5日、昨年に引き続き、大規模災害などの発生時に素早く適切な救護活動ができるよう、災害時医療訓練を行いました。

訓練には、市病院協会の医療従事者など約30人が参加し、大規模災害時における病院の役割を再確認するとともに、被災者に対する救護などの対応が大変重要となることから、各病院が機能の維持や府を始めとする外部からの人的・物的支援の受け入れについてシミュレーションし、災害に備える訓練を行いました。



イングリッシュ・プレゼンテーション・コンテスト

1月13日、アルカスホールで、イングリッシュ・プレゼンテーション・コンテストの本選を行いました。

予選を通過した12人の中学生が「The World and Me」をテーマに英語でプレゼンテーションを行いました。各生徒が聞き手に伝わることを意識して発表し、外国人英語講師からの質問にも即興で、適切に答えていました。

市立第六中学校3年生の河本佳佑さんが「Connect」と題し、英語を通して世界とつながることを自分の経験を踏まえて発表し、第一位に輝きました。